



腸閉塞って?

消化管(胃や腸)の内容物がなんらかの原因で通過できなくなっている状態。

胃や腸といった消化管の内容物が、何らかの原因で腸に詰まってしまい、肛門まで移動できなくなってしまう状態をいいます。異物の誤食が主な原因ですが、夏場は“異物化した毛玉”が原因となるケースも。

主な 症状

- 嘔吐
- 下痢(軟便)
- 食欲不振
- 元気がない など

食べた物が腸を通過しないため、食べても、水を飲んでも全部吐いてしまうのが一般的。夏バテとよく似た症状が見られることも。また、腸内で異物が引っかかっているため、吐き出しても吐き出すことができず、胃液だけをくり返し吐くようになることもあります。閉塞が重症化してしまうと激しい腹痛を伴うため、うずくまったり、ショック状態に陥ることもあります。



主な 原因

腸閉塞の原因には、異物の誤食や腸重積(腸管がとなりの腸管の中に入り込んでる状態)、回虫などの腸内寄生虫の大量寄生、腹腔内の腫瘍、ヘルニアなどがあります。この中で猫では特にボールやおモチャ、ひもやビニールなどの日常生活品などの誤食が原因となることが多いため注意が必要です。

検査と 治療

まずは、腸に詰まっている異物の場所や大きさ・形を正確に知るため、レントゲン検査

や超音波検査をし、異物を取り除く治療を行います。多くの場合、手術による外科的処置を行います。閉塞によって腸管の血管の

血行障害が起こり、腸管が壊死(腸管の組織が回復できないほどダメージが激しい状態)している場合は、その腸管部分を切り取り、腸管の端々を接合する手術となります。また、ショックなどを起こしている場合は、点滴などの処置を行い状態の改善を図ることが優先されます。



予防法

猫の腸閉塞の原因には異物の誤食が多いため、猫の身の回りに誤食するようなものを置かないようにすることや、こまめなブラッシングで毛玉の発生や異物化を防ぐことが重要です。また、寄生虫などが原因となることがあるので、定期的に検便を行いましょう。上記のような症状がある場合は、重症になる前に早めに通院、検査を受けてください。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと

2号無料!!
(2ヶ月分)

